

第3学年 国語科学習指導案

1組 計26人（男子13人 女子13人）

指導者 西村 慎哉

1 単元 「場面の様子をそうぞうしながら読もう」 （教材「ちいちゃんのかげおくり」光村3年下）

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは第3学年「きつつきの商売」で、音読発表会を行うことを通して、情景や登場人物の様子が分かるように工夫して読むことのおもしろさを感じてきている。また、第3学年「三年とうげ」では、話の展開を楽しみながら、情景や登場人物の行動に着目したり、おもしろいと思ったところにサイドラインを引いて、自分なりに理由を付けて交流したりできるようになってきている。

そこで、これまでの学習を生かし、主人公の行動や会話文を手がかりに場面の様子を想像しながら声に出して読み、自分の考えをもって交流し合うことをねらいとして本単元を設定した。

教材「ちいちゃんのかげおくり」は、教科書で戦争を扱う最初の作品である。本文は、五つのまとまりから構成されており、平和の大切さについて考えることができる内容である。また、場面設定も明確であり、情景や人物の言動が生き生きと描かれているので、容易に感情移入しながら読み進むことができると考える。これにより、子どもたちが教材文を読み進めていく中で、家族の絆や戦争の悲惨さ、平和の大切さを考えるきっかけとなる物語である。

本単元で子どもたちは、会話文やその前後の言葉に着目して読むことにより、場面の様子やちいちゃんの気持ちを想像しながら読むことができる。また、音読する時の工夫を話し合うことで、読みをより確かなものにするができる。さらに、学習の最後に聞いている人に場面の様子がよく伝わり、心に残ったことを表現できるような音読発表会をするという単元の構成にすることで、単元の見通しや目的意識をもって教材文を読むことができる。

ここでの学習は、第4学年「モチモチの木」で、場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読んだり、自分の考えをまとめ発表し合ったりする学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

- | |
|---|
| ○ 自分が一番心を打たれた場面の様子を、聞き手を意識して声に出して読もうとしている。
【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 読み取ったちいちゃん的心情を理由を添えて発表し合い、自分と友達の見方共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。
【話す・聞く能力】 |
| ○ 会話や動作を表す言葉をもとにして、場面の移り変わりや情景を想像しながら読むことができる。 |
| ○ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読む。 |
| ○ 読み取った内容について、感じたことなどを交流し合い、一人一人の見方について違いがあることに気付くことができる。
【読む能力】 |

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、国語に対する興味・関心は高く、発表や音読なども意欲的である。しかし、発表内容に個人差があり、自分の考えは発表できるものの、その根拠や友達の見方に関連づけた意見を言える子どもは多くない。書く活動に対して、自分の思いを伝えることを好んでいる子どもが多いが、文字が雑になったり、かなり時間がかかったりする子どももいる。話し合い活動では、これまでの実践の積み重ねから、相手を意識しながら話したり聞いたりすることができつつあり、自分の考えを自由に言える雰囲気である。

イ 本単元の内容に関わる実態

① 物語を読むときにどんなことに気を付けていますか。			
ア 場面の様子を想像しながら	73%	イ 主人公の気持ちを考えながら	50%
ウ 会話文に気を付けながら	50%	エ 何も考えずに	4%
② 戦争という言葉からどのようなことを思い浮かべますか。			
・恐ろしい ・悲しみ ・意味のない戦い ・殺しあう ・いやなこと			
・鉄砲で撃たれて死ぬ ・すごく悪いこと ・人が倒れていく感じ ・怖い			

物語を読む学習については、これまでの役割演技や音読発表会などの経験を通して、楽しいと感じている子どもが多い。また、場面の様子を想像しながら読もうとする態度を身につけている子どもが7割ほどいる。しかし、主人公の気持ちを想像したり、会話文などの言葉に着目したりしながら読む子どもたちは半数ほどで、叙述に即した読みについては今後指導を行っていく必要がある。

本教材で取り扱う戦争については、戦争に関する本を読んだ経験やメディア等の情報から、戦争に対して恐怖や悲しみなどの負のイメージをもっている子どもがほとんどである。

音読については、多くの子どもが毎日教材文を読むことを家庭学習の中で取り組んでおり、既習単元については適切な速度と正確さで読める子どもが多いが、聞いている人に場面の様子が伝わるように読むまでには至っていない。

3 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、子どもが自他の学びをつなぎ、学びを生かすことができるように、以下のような点に留意して指導していく。 () 内は、五つの言語意識

- 「つかむ」過程では、プレ教材「きつつきの商売」を使い、同じ話でも音読の仕方によって、感じ方が違うことを確認することで、場面の様子や登場人物の気持ちを想像した音読の工夫を想起することができるようにする。また、題名読みをし、かげおくりという遊びを実際にするすることで、教材文への関心をもつことができるようにする。そして、**単元末では本単元の音読を経験したことがある4年生を対象に音読発表をすることを知らせ、意欲や目的をもって「ちいちゃんのかげおくり」を読み進められるようにする。(相手, 目的)**
- 「深める」過程では、場面の様子がわかる言葉や会話文の前後の言葉にサイドラインを引いたり、動作化や役割演技をしたりすることで、場面の様子やちいちゃんの気持ちを想像しながら読むことができるようにする。その際、読み取ったちいちゃんの気持ちを交流し合うことで、より多面的に考えることができるようにする。また、二つのかげおくりの場面を比べ、共通の会話文や表現の違いに気付くことで、ちいちゃんのおかれている状況を読み取ることができるようにする。さらに、**音読する時の工夫を話し合うことで、読みをより確かなものにすることができるようにする。**
- 「味わう・高める」過程では、これまでの読み取りを想起させた後、グループで音読発表したい場面を選び、その選んだ理由を明らかにしながら、音読の工夫を考えることができるようにする。また、教材文に書き込みができるワークシートを使うことで、速さや強弱、間の取り方などの音読記号を書き入れ、音読発表の原稿を作ることができるようにする。さらに、**グループ内で工夫を話し合いながら練習したり、音読発表の原稿を見直したりすることで、確かな読みを自覚できるようにする。**
- 「まとめる・広げる」過程では、まず学級の友達とどのような様子を伝えたいのかを発表し、読み取ったことを音読で伝える音読発表をする。その中で感想を互いに伝え合うことで、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くとともに、**相互評価ができるようにする。**また、4年生に音読発表する際には、4年生に感想を出してもらったり、賞賛してもらったりして充実感を味わえるようにする。(場面・状況, 方法, 評価)

4 指導計画 (全12時間)

は評価項目及び評価方法

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つかむ	2	1 音読による印象の違いについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレ教材「きつつきの商売」を振り返って、音読の大切さに気付くことができるようにする。 ○ ちいちゃんの年齢やかげおくりという遊びに興味をもたせ、本單元への意欲を高めることができるようにする。 ○ 初発の感想を出し合い、分類・整理することで、自分の読みを見直したり、深めたりする必要に気付くことができるようにする。 ○ 並行読書ができるように、関連図書一覧に書かれている本を準備し、コーナー作りをする。
		2 題名読みをし、かげおくりという遊びを実際にする。 3 教材文「ちいちゃんのかげおくり」を読み、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 4年生に「ちいちゃんのかげおくり」を音読で伝えよう。 </div>	
深める	6 (本時4/6)	4 場面の様子を想像しながら読み、どのように音読したらよいか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家族みんなで「かげおくり」 ○ ひとりぼっちになったちいちゃん ○ 待ち続けるちいちゃん ○ たった一人の「かげおくり」 ○ 子どもたちが遊んでいる公園 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもたちの読みを助けるために、当時の様子を想像できるような道具や写真資料を提示するようにする。 ○ 場面の様子やちいちゃん的心情を読み取り、その後音読する時の工夫を話し合うことで、読みをより確かなものに行うことができるようにする。 ○ ビデオカメラを使って、音読の様子を観察させることで、これまでの学習を振り返り、音読の工夫に生かすことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 会話や動作を表す言葉をもとにして、情景を想像しながら読むことができたか。 (発表・観察・ワークシート)【読む能力】 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読み取ったちいちゃん的心情を理由を加えて発表し合い、自分と友達の見方の共通点や相違点を考えながら話し合うことをできたか。 (発表・観察)【話す・聞く能力】 </div>
		5 一番心に残った言葉や文を基に読みたい場面を選び、その選んだ理由について話し合う。 6 音読発表の原稿を作る。 7 グループで読む練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 緩急や強弱、間の取り方などの音読記号に加えて、硬い声や柔らかい声などの声の表情も入れて音読発表の原稿を作ることができるようにする。 ○ グループ内で工夫を話し合いながら練習することで、自分の音読発表の原稿を見直すことができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 書かれている内容の中心や場面の様子がよくわかるように声に出して読むことができたか。 (発表・観察)【読む能力】 </div>
味高 わめ うる	3		
ま広 とげ める	1	8 学級の友達に音読発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工夫した読みを4年生に紹介することで、ここまでの活動を振り返らせ、充実感を味わわせることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 読み取った内容について、感じたことなどを話し合い、一人一人に感じ方について違いがあることに気付くことができたか。 (発表・ワークシート)【読む能力】 </div>
		9 4年生に音読発表をする。	

5 本 時 (6 / 12)

(1) 目 標 叙述に即して、情景や登場人物の心情を想像しながら、場面の様子や登場人物の心情を読み取ることができる。

(2) 展 開 () は教師の言葉かけ () は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目と個に応じた指導 ☆ はICT機器活用上の留意点

過程(分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ	1 本時の学習内容を確認する。	○ これまでの学習を振り返らせたり、学習計画表を確認させたりすることで、本時の学習内容を確認し、意欲をもたせることができるようにする。
か	・ 4の場面のかげおくりについて話し合います。	☆ 電子黒板を使って、学習活動を提示することで、子どもたちが学習の流れを意識しながら活動することができる。
む	4の場面のかげおくりは、ちいちゃんにとってどんなかげおくりだったのだろうか。	○ 1の場面の学習の足跡を教室に掲示することで、二つのかけおくりの共通点や違いを比較しやすくする。
(5)	2 学習課題を確認する。	○ 2つのかけおくりで同じところをクラス全体で確認させることで、違うところを捉えやすくできるようにする。
深	3 学習の進め方を知る。	○ かけおくりの違うところをサイドラインを引く活動をさせること、最初と最後の様子の違いを把握したり、叙述に立ち返った発表をしたりすることができるようにする
め	1 音読する。 2 ちいちゃんの様子を読み取る。 3 音読の仕方について話し合う。 4 学習を振り返る。	二つのかけおくりの違いを見つけ、ちいちゃんの様子を読み取ることができたか。(ワークシート・発表)【読むこと】
る	4 場面を音読する。	◆ 違いを見つけたことが難しい子ども
(25)	5 二つのかけおくりの場面を比べて、その違いを話し合う。 どのような違いがあるかな。	→ 1の場面のかげおくりと4の場面のかげおくりの本文を並べたワークシートを準備したり、デジタル教材で提示したりして、視覚的に違いに気付くことができるようにする。
味	6 どのように音読したらよいか話し合う。	○ 二つの場面の音読を比較しながら、読み取った学習を生かして音読することで、音読する時に気を付けることを発表し合うことができるようにする。
わ	1の場面のかげおくりとはどのように変えて音読したらいいかな。	☆ 1の場面のかげおくりを学習した時に子どもたちが音読した様子の映像を提示することで、どのように音読したらよいか話し合うことができるようにする。
め	・ ちいちゃんの会話を穏やかだけど、元気のない声で読んだらいいです。 ・ 家族の会話は遠い空から聞こえてくるような声で読んだらいいです。	○ 本時の学習を振り返り、ちいちゃんにとってどんなかげおくりだったのか問いかけることで、本時の学習での読みをまとめることができるようにする。
(10)	7 本時の学習をまとめる。	○ 次時では、本時の学習をもとにして、4の場面をさらに読み進めていくことを確認する。
ま	・ やっと家族に会えたかげおくり ・ 最後の力を振り絞ったかげおくり	
と	・ 死んでしまったかわいそうなかげおくり ・ たった一人のかげおくり	
め	8 次時の学習を確認する。	
(5)		